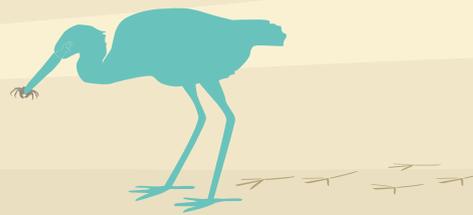


# なぎさ NEWS



## 地曳網でとれた たくさんのトラフグ

水族園では、2ヶ月に1回、葛西海浜公園「西なぎさ」で小型の地曳網を用いた調査を行っています。今回は6月6日の調査結果を報告します。

天気はくもりでしたが、気温は21℃と初夏らしい気候でした。また、潮回りは大潮で、調査を行った時間帯は干潮で大きく潮がひいていました。

今回の調査で特徴的だったのは、トラフグの稚魚が100尾ほど採集されたことです。

地曳網をひいて採集した生き物を大きなバケツに収容していた時、白く小さいボールのようなものがぼこぼこ浮いているのに気がつきました。一見、水面にゴミがたくさん浮いているように見えたのですが、実はこれがすべてトラフグの稚魚だったのです。

生き物を水族園に持ち帰る準備をしている間に、びっくりして膨らんだトラフグたちは落ち着き、縮んだ体でバケツの中をゆったり泳いでいました。

トラフグは内湾に多く生息し、3～6月に海底の小石や粗い砂地に産卵します。卵からふ化した仔魚は砂泥底の浅瀬で成長し、大きくなるにつれて沖合で生活します。それまでは、内湾の河口付近でも見ることができます。

過去の調査でも採集記録はありましたが、今回のようにたくさん採集されたのは初めてで、とても驚きました。これからも調査を通して「西なぎさ」の生き物の変化を見ていきたいと思います。

(飼育展示係 太田 智優)



上) 小さな白いボールの正体は? 下) トラフグの稚魚

## 雨ニモ負ケズ - ヤマトオサガニの求愛ダンス -

6月21日の生き物調査は、あいにくの雨模様でした。遊びに訪れる人はまばらで、晴れの日の上でせっせとエサを食べているコメツキガニの姿もありません。その静けさの中、いつもと変わらない様子で活動していたのはヤマトオサガニです。繁殖期に見られるオスの求愛行動を確認することができました。白く大きなさみ脚をゆっくりもち上げて下ろす動きを繰り返し、まるでダンスをしているように見えます。しとしと雨に降られながら、たくさんのオスが同じダンスを続ける姿はひときわ印象的でした。

(教育普及係 宮崎 寧子)



求愛のダンスをするヤマトオサガニのオス

## なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、今年の2月から6月に行った「西なぎさ」での地曳網調査と生き物調査の結果をまとめて報告します。4月と6月の調査では、たくさんの稚魚が見られました。大きな魚が入りにくく、エサとなる生き物が豊富な干潟は、「海のゆりかご」とも呼ばれます。

**2月地曳網調査:** 水温11.2℃、気温9.8℃。ハゼのなかまや、例年冬に見られるアユの稚魚など合わせて20尾ほどが採集されました。

**2月生き物調査:** 気温は14.3℃と、2月にしては穏やか。ヤマトオサガニやオサガニの巣穴を7～8個確認でき、活動していたことが予想されました。

**4月地曳網調査:** 水温15.8℃、気温17.5℃。ハゼのなかまの稚魚が約6種類、1000尾以上も採集され、春の訪れが感じられました。

**4月生き物調査:** 気温26.7℃。初夏のような陽気です。カニたちが活発に活動していました。また、ヘラサギやミヤコドリがエサを食べに訪れていました。

**6月地曳網調査:** 気温21.0℃、水温20.5℃。トラフグの他、前回の調査でも採集されたハゼのなかまやボラなどの稚魚が数多く見られました。

**6月生き物調査:** 気温は23.0℃。潮だまりでは、タカノケフサイソガニやオサガニの小型個体(甲幅1cm以下)がいつもより多く観察できました。